

入間市公共施設マネジメント事業計画（原案）市民説明会の概要（1月24日(木) 高倉公民館）

1. 開催日時・会場

〈豊岡地区〉

日 時 平成31年1月24日（木） 午後7時00分から午後9時30分

場 所 高倉公民館 2階 大会議室

2. 内容

①開会あいさつ（田中市長）

②公共施設マネジメント事業計画（原案）についての説明（公共施設マネジメント推進課）

③質疑応答

④閉会

3. 参加者数

参加者 94名

※ 質疑応答の概要は別紙のとおりです

「公共施設マネジメント事業計画（原案）」市民説明会 質疑応答一覧

No.	発言要旨	応答
1	今後のスケジュールについて、パブコメの期間が1ヶ月とあり、その後2週間程で計画の確定とある。その期間は短いと感じるがその考えは。	(公マ課) パブコメの期間は1ヶ月半あり、順次出てきた質問や意見は対応する。その後、計画へは反映させるため、実際の検討は時間をかけてできるものと考えている。
2	高齢化が進む中で、共助、近隣助け合いの市の方針は良いと思う。しかし、住民の支え合いの拠点は歩いて行ける距離に存在しないと活動は難しいと思う。高倉公民館は廃止という案が出ているが、ちょっと違うのではないかと高倉から公共施設が無くなれば、地区が衰退していくのではないかと危惧している。暮らしやすいまちづくりとは何か市長にお聞きしたい。	(市長) 公民館については、高倉公民館はすぐ壊すわけではなく、建物が使える限り地域の為に使う。高倉小学校も使えるだけ使う。しかし、全ての公共施設を残すということは、財政的に困難であり、持続可能なまちづくりにならない。計画的に統廃合し、市民サービスの質を下げないために工夫していく。 (総務部) 黒須公民館の北側に統合した新たな施設を設ける。高倉公民館は地域のコミュニティ施設として使う。高倉小学校も建物はまだ使えるため、可能な限り使う考えである。グラウンドは広いため、他の公共施設の移転場所としても考えている。
3	なぜ黒須に固執するのか。入間川や霞川は、三日間の合計で500mmの降雨があれば氾濫する恐れがある。なぜ公民館や小学校を黒須地区に移すのか。普通なら高い所に避難するはずである。市長はどのような話は聞いていないのか。	(市長) 水害に関する質問は市議会でもあり、また担当からも説明はあった。黒須地区がどのような場所であるか県の位置づけを確認しながら黒須小学校を建てている。詳細は担当から話をさせる。 (危機管理課) ハザードマップについて説明させていただく。大きな河川については、水防法という法律に基づいて河川管理者である国や県が浸水想定区域図を作成しなければならないことになっている。入間川は、その指定区域が狭山市の途中の下流からで、入間市内にはその指定がない。なぜ入間市に浸水想定区域があるのかというと、浸水想定区域図の作成が法的義務になった際に近隣の自治体も参加し話し合う機会があり、入間市も任意で参加した。そこで仮に入間市でという想定データをもらったのが平成13年度に作成した洪水ハザードマップである。その後、国の基準が変わってブラッシュアップされているが、入間市にはその情報はない。法的義務の無い自治体については、過去の浸水の実績図を示すこととなっており、入間市もそれに基づき示している。公共施設の配置に関しては、土砂災害特別警戒区域への建物の建築には規制がある。そういった場所は官民に関わらず強固な建物でない

		と建てられないこととなっている。それ以外の部分については、市の考え方に基づき、防災上の観点からフォローしていきたい。
4	・ 地区には低い所と高い所とある。洪水となった場合、市長は責任を取れるのか。安全な所を選択するのが当たり前だろう。	(市長) 最低限安全な場所を確保しなければならないというのは当然である。だからこそ様々な基準に照らして判断している。局所的な集中豪雨は日本中どこで起きるか分からない。行政としては、最大限の安全確保に努めなければならない。河川の問題だけではなく、高倉には急傾斜地の問題がある。国や県の基準に照らし、これまでの市の実績を踏まえて進めていきたい。
5	・ 一番安全、絶対安全はない。より安全な所、より安全な状況をつくる、というのが質問の趣旨。	(市長) 私にも分かることと分からないことがある。詳細は担当に任せさせる。いずれにしても、完全に安全な場所を目指さなければならない。ただし、公共施設の再配置については、財政や用地の問題も含め、総合的に考えて判断する。 (総務部) 我々の考え方が伝わっていないようなので、説明をさせてもらいたい。先ほど、高倉小学校に公共施設を寄せていきたいということを申し上げた。それは、そこが防災拠点にもなり得るということである。また、黒須地区体育館もいずれは老朽化していく。それを高倉小学校の場所に建替える。それは避難所としての機能を備えることができるということである。黒須地区にも避難所は設定しているので、全体のバランスは考えていきたい。
6	・ 人口減少は全国的な傾向で仕方がないと思う。しかしある人に、「所沢に住んでなぜ入間に住まないのか？」と聞いたところ、所沢の方が公共施設が充実していると答えがあった。だから土地が高くても住むのだと思う。所沢はまだ人口が増加傾向にあるという。入間も人口が増加するような取り組みをするべきではないか。	(政策推進室) 人口減少対策については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、5 箇年で 68 の事業を展開し、福祉や子育てなどの施策を重点的に行っている。将来、人口が 9 万人になる予測を 12 万人に維持できるよう取り組んでいる。市の人口は減少傾向にあるが、その減り方は推計より緩やかになっている。平成 28 年 1 月から 12 月までの 1 年間で 418 人減ったのに対し、平成 29 年は 399 人、平成 30 年は 272 人と対策が繋がっているかは分からないが、努力の一部が実っていると感じている。
7	・ 人口減少対策の一部を具体的に教えていただきたい。	(政策推進室) 仕事場の創生ということで、女性が働きやすい環境づくりや創業支援、公共交通の空白地を無くすために、「ていーろーど」とこれを補完する「ていーワゴン」を走らせている。

		(市長) 総合計画の中でも様々なことを実施している。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で「元気な子どもが育つまち」を掲げている。様々なデータがある中で、30 代の人口の流入が増えてきている。それは、子育ては入間市ということの表れだと思う。近隣市の中では入間が選ばれている。昨年には学校にエアコンを設置した。また、健康福祉センターでは、出産から子育てまで切れ目の無い支援を行っている。他市にも負けない事業を行っている。公共施設マネジメントにも取り組んでいるため、公共施設も安心して利用できるという施策を行っている。
8	・30 年入間市に住み、仕事の関係で色々な土地を回ってまた戻ってきた。しかし、また出ようと思っている。その理由は、例えば保育所がボロボロであること。それなのに 30 年間かけて直すといっても遅い。また、低年齢児の受入れ体制がない。これまで何もしてこなかったツケである。基金はいくらあるのか。	(政策推進室) 基金については、公共施設マネジメント関係が 6 億円、財政調整基金が約 13 億円ある。
9	・聞きたいのは、市が高倉地区をどのように考えているかということ。公共施設が減って事業費が 19.7 億円になると説明があった。しかし、売却せず新しく造る施設もあるようだ。改修も行うのになぜ 19.7 億円にも減るのか。	(公マ課) 事業費が減る理由であるが、高倉小学校は他の施設を入れて集約する。集約・複合化し、新たな施設の更新費用をかけずに全体の施設量を減らしていく。黒須公民館や黒須小学校を残すということで検討してきた。それは、単に建築年数だけではなく、劣化状況や児童数、通学の問題を考慮し、新たに土地を購入して建替える案とした。公民館も同じ状況である。配置については、全体の人口バランスを考えて決めた。
10	・生産緑地は、30 年間は農地を売却しない代わりに、固定資産税などの税金を軽くするものである。生産緑地法には、指定告示日から 30 年が経過したものについては、市に買取りを申し出ることが可能になるという規定がある。2022 年には 30 年を経過する生産緑地が出てくる。そうになると農地を売ってアパートなどを建てる人が増えると思われる。黒須と高倉を比較した時、高倉の方が農地が多い。2022 年以降、黒須と高倉の人口が逆転する可能性がある。こうした状況の中で決定を急ぐ理由はあるのか。	(市長) 生産緑地の面積は、今持ち合わせていないが、人口ビジョンは、人口動態を見込んで作成した。合計特殊出生率は、平成 29 年度で 1.20 まで上がってきた。今後も向上するように取り組まなければならないが、子どもを産む年代の人口が少ないため急激に人口が増えるわけではない。子どもが増えるような、子育てや教育環境の充実を図る取組みを行っても、2060 年に 12 万人を維持するのがやっとなであろうという推計である。その状況の中で計画を作る必要があり、どちらに統合するのが問題なのではなく、子ども達が減少する中で、いかにして適正な規模の学校へと編成するかが問題なのである。地域の課題、通学や予算の問題などを考えなければならな

		い。現在の案で小学校は、地区の中間付近に土地を購入して建てようとしている。これは必ずやらなければならないと思っている。実現できるよう真剣に取り組んでいく。
11	・黒須小学校への統合はずさんだ。やはり防災上の問題が大きい。計画が実行されれば、一番割を食うのは子ども達である。土曜日の授業が無くなり、一日の授業時間は長くなっている。通学時間も長くなる。不審者の目撃情報もあり、保護者は見守りを行っている。この計画は見過ごせない。高倉の公共施設を全て無くすのではなく、高倉小学校の中に公民館を入れたりするのはどうかと以前の説明会の時にも提案した。今回学童保育室の複合化となっているが、そういった考えはないのかお聞きしたい。 ・高倉小学校を小学校として残し、その中に公民館などの機能を複合化して残してほしい。 ・一番弱い子ども達が割りを食う計画のまま進めるということか。 ・地域の施設として残していくということは、維持費がかかるはず。 ・統廃合はやむを得ないものだとしても、そのやり方は他の方法もあると思う。公民館を小学校と複合化したらどうかと提案したが、その際には他の土地を売却することで、規模は縮小するサービスの質は落とさない方法もあると思う。	(公マ課) 高倉小学校は、黒須小学校との統合後も引き続き使うことは考えている。地域からの意見もあったので、高倉小学校は他の公共施設への転用を考えている。地域の方が使えるコミュニティ施設として活用していくという計画となっている。 (公マ課) 計画としては、黒須小学校と高倉小学校の統合というのはそのままである。しかし、地域の防災拠点、コミュニティ施設は引き続き必要であるため、高倉小学校の建物の活用を考えている。 (公マ課) 計画としては、小中学校は、市内全域で9地区の地域区分で1施設ずつ配置していく考えである。統合に向けては通学の問題は考えなければならない。しかし、今ある施設を維持し続けるには更新費用がかかる。また、老朽化した施設を整備もせずに使い続けることは安全性の確保という面からも看過できない。 (公マ課) 高倉小学校については、別の公共施設を移転し集約することで、全体の量は減らしていく。この計画では、それぞれの施設で解体費用や用地取得費用も見込んでいる。 (公マ課) それについても検討はした。学校などの教育施設は施設全体の54%を占めている。将来の児童・生徒数を考えると、今の規模をこれからも維持していく必要があるのだろうか。利用状況も含め、統廃合という計画を提案させてもらった。
12	・小学生の通学の限界の距離について、考え方があればお聞きしたい。また、距離が長くなった場合、スクールバスを出すこと	(学校教育課) 基本方針の中で、通学の距離については、徒歩に限ったものではないが、小学生で概ね4km以内、中学生で

	は考えているのかお聞きしたい。	概ね 6km 以内ということを示している。実際にそのような距離になる場合は、市長部局とも相談して、スクールバスを出すことも考えなければならない。
13	かつて入間市と狭山市は合併の協議をしていたが、今後も合併はしないのか。市役所だけ新しくして、学校や公民館を無くすと感じてしまう。市役所の機能を分割して持って来られないのか。	(総務部) 高倉小学校をあえて無くすという考えはない。高倉小学校の児童数は現在 296 人で、5 年後は更に減少する見込みである。それが増加に転じるのは難しい。そうなった場合、教員の配置も大変厳しい状況となる。教員を確保できる子どもの規模にする必要がある。そういう意味で高倉小学校の将来を憂慮している。市役所の耐震化のことと高倉小学校のことは、別問題であると考えていただきたい。
14	市役所の整備費用は高額である。コストを減らす方策を教えてもらいたい。市役所の吹き抜けは無駄であると感じる。事業費が出ているので、既に設計はできているのか。	(公マ課) 確かに吹き抜けは不必要な部分で、空調のコストが多くかかっていることが考えられる。建替えの際には、そのような部分はなくしていきたい。原案では基本的な方針を示しているだけで、設計は無い。
15	- シート 40 で、2018 年度との比較で 2023 年度の推計では黒須小学校は 474 人と増え、高倉小学校は減少している。これは人口構成から予測を出しているのか。先ほど生産緑地の話もあったが、高倉地区の人口が増え逆転するかもしれない。 - シート 53 で、高倉小学校は他の公共施設の機能の移転とあるが、具体的には何があるのか。 - 人口減少は仕方なく、小中学校の統廃合はやむを得ないのかなと思う。しかし、豊岡第三地区の中で、黒須小学校・黒須中学校は地区のへりの部分になる。防災拠点としての機能を考えた時、両校とも川沿いにある。大雨の際に浸水するかは分からないが、いずれかが山側にもあった方がバランスはいいのではないか。	(公マ課) 2023 年度の推計は、今現在地域に住んでいる 1 歳から 6 歳の子ども達が、そのまま進学した場合の数字となっている。生産緑地の話もあったが、人口構成が大幅に変わった場合は、10 年間の中(第 1 期事業計画の期間中)で見直しを行う。 (公マ課) シート 53 については、現在の案では、第 2 期には青少年活動センターや扇台福祉作業所が耐用年数を迎えるため、そういった機能を移転する可能性がある。また、第 4 期には黒須地区体育館が耐用年数を迎えるため、移転先として想定している。 (危機管理課) 防災拠点については、防災計画の中では、公民館や小中学校など様々な施設に役割を持たせるように定めている。その中で黒須も高倉も防災拠点は必要であると考えている。計画に示している公共施設についても、防災拠点として活用するよう位置付けていく。
16	明らかに説明不足。皆さん納得している様子はない。再度説明会の開催をお願いしたい。	(総務部) スケジュール等の制約もあるため、持ち帰って検討する。
17	「選択と集中」という言葉がある。こうみると高倉は選択から漏れ、集中から外れ、優先順位が最下位近くなった地区と見え	(公マ課) 移転が前提であるが、黒須公民館。高倉小学校に機能を移転した後は、高倉公民館。高倉小学校への複合化した

	る。豊岡第三地区には売却予定の施設が幾つかある。それは何か列挙してほしい。 ・ 武道館、弓道場は。 ・ 計画が決まればこの方針も決定ということか。	後は、高倉学童保育室。高倉小学校との統廃合で別の場所に移転が決まれば、黒須小学校。同じく黒須学童保育室も複合化後は売却を予定している。それ以外の施設については 30 年間の期間の中では予定はしていない。 (公マネ課) 武道館、弓道場については、30 年の計画が終わった以降の話。移転が出来れば売却を検討しているが、この計画の中には記載していない。 (公マネ課) 第 1 期は決定したいが、第 2 期、第 3 期については見直しもある。今の計画の中では、このような想定である。
--	--	--